

| | | | |
|--|--|---------|-----------|
| 科目番号 | B-18 | 科目名 | 関係法規 |
| 対象学年 | 3学年 | | 医療と法律 |
| 担当講師 | 院外講師 | 実務経験 | 有 |
| 開講学期 | 前期 | 単位(時間数) | 1単位(15時間) |
| 科目の目的 | 医療における法令を理解し、看護職及び関連職種の業務の法的根拠を学習する。 | | |
| <p><授業の概要></p> <p>まず法の概要として、法に関する基礎知識と考え方の特徴を解説し、法は身近なものであることを学ぶ。そして医療職として医療現場で直接必要とされる各種関係法規の概要・基本原則を学び、看護職および関係職種の業務の法的根拠を理解する。</p> | | | |
| 関連既習科目 | 法学概説、看護学概論 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院 | | |
| <p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 法の概念 法の概念と法の分類 衛生法</p> <p>第2回 看護法 保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律</p> <p>第3～4回 医事法 医療法 医療関係資格法</p> <p>第5回 保健衛生法 共通保健法 分野別保健法 感染症に関する法</p> <p>第6回 社会保険法 医療・介護の費用保障 福祉法 福祉の基盤 児童分野 高齢分野 障害分野 手当</p> <p>第7回 労働法と社会基盤整備 環境法 環境保全の基本法 公害防止の法 自然保護法 看護をめぐる制度と政策〔看護学概論〕 看護サービスと経済のしくみ ―診療報酬と人員配置―</p> | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 科目認定 | 成績計上の算定割合：100点 | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|--|--|--|-----------|
| 科目番号 | B-20 | 科目名 | 公衆衛生学 |
| 対象学年 | 3学年 | | |
| 担当講師 | 院外講師 | 実務経験 | 有 |
| 開講学期 | 前期 | 単位(時間数) | 1単位(15時間) |
| 科目の目的 | 疫学的視点に立って地域の疾病構造・環境問題・保健システムを理解できる。 | | |
| <授業の概要> | | | |
| 疫学的視点で疾病構造や環境問題などを理解し、公衆衛生活動について学ぶ。この問題は今後、大きな問題であり理解を深めたい。また感染症は予防施策が重要である。感染性疾患の現状とその予防について共に考えたい。 | | | |
| 関連既習科目 | 地域保健学、看護学概論 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 医学書院 | | |
| <授業の展開及び内容> | | | |
| 第1～2回 | 公衆衛生の理解 第1章～第3章 | ①公衆衛生のエッセンス ②公衆衛生の活動対象 ③公衆衛生のしくみ | |
| 第3回 | 集団の健康をとらえるための手法 第4章 | ①疫学・保健統計 | |
| 第4回 | 環境と健康1. 第5章 | ①環境と健康 ②地球規模の環境と健康 | |
| 第5回 | 環境と健康2. 第5章 | ①身のまわりの環境と健康 ②日本の環境行政 | |
| 第6回 | これまでの復習 | | |
| 第7回 | 感染症とその予防対策 国際保健 | 第6章 第7章 | |
| 評価方法 | | | |
| 筆記試験 | | | |
| 科目認定 | | | |
| 成績計上の算定割合：100点満点 | | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|--|---|---------|-----------|
| 科目番号 | C-55 | 科目名 | 看護管理 |
| 対象学年 | 3年生 | | |
| 担当講師 | 院内講師 | 実務経験 | 有 |
| 開講学期 | 前期 | 単位(時間数) | 1単位(30時間) |
| 科目の目的 | 保健医療福祉システム及び政策医療における看護の役割を理解し、看護管理の意義や看護管理の方法を理解する。また、医療や看護の国際協力とそのしくみを理解する。 | | |
| <p><授業の概要></p> <p>医療及び看護は、どのようなしくみで動くのか学習し、その動きの中に見られる組織及び組織に必要なものは何か理解する。また、国際的な視野に立ち医療及び看護を考える。</p> | | | |
| 関連既習科目 | 看護学概論 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院 | | |
| <p><授業の展開及び内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 看護におけるマネジメント 看護管理学とは 看護におけるマネジメント 看護ケアのマネジメント 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践 看護職としてのセルフマネジメント キャリアと形成 看護職のキャリア形成 看護専門職としての成長(社会化) タイムマネジメント ストレスマネジメント 看護サービスのマネジメント 看護サービスのマネジメント 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント マネジメントに必要な知識と技術 マネジメントとは 組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整 医療機関の機能分化と地域の連携 地域医療連携 公的病院の役割 国立病院機構が担う役割(政策医療) 看護を取り巻く諸制度 看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 レポート | | |
| 科目認定 | 成績計上の算定割合:100点 | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|---|--|---------|-----------|
| 科目番号 | E-7 | 科目名 | 看護の統合と実践Ⅱ |
| 対象学年 | 3学年 | | ケーススタディ |
| 担当講師 | 教育主事 | 実務経験 | 有 |
| 開講学期 | 前期～後期 | 単位(時間数) | 1単位(15時間) |
| 科目の目的 | 実践した看護を振り返り、ケーススタディとして論文にまとめることで、研究的視点で理論的に自己の看護に対する考え方を探求できる。 | | |
| <授業の概要> 実践した臨床看護を講義で学習した方法を用いて、論文にまとめ、看護観の育成を図る。 | | | |
| 関連既習科目 | 看護の統合と実践Ⅰ(看護研究の実際) | | |
| テキスト | 2年次のテキスト・講義資料を参照して下さい。 ガイダンスに応じて、資料を配布します。 | | |
| <授業の展開及び内容> | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | |
| (4月) | ケーススタディ実施要項(全体計画および進め方) | | |
| 第2回 | 疑問から研究課題へ | | |
| (4月～6月中旬) | 気づきや疑問から研究課題の絞り込み 文献検索・文献検討 | | |
| 第3回 | 研究計画書作成 | | |
| (6月中旬～下旬) | | | |
| 第4回 | ケーススタディの実際(論文作成) | | |
| (7月～8月) | はじめに 研究目的 事例紹介 看護の実施と結果 考察 結論 おわりに | | |
| 第5回 | ケーススタディの実際(論文推敲) | | |
| (8月) | ケーススタディの実際(抄録作成) | | |
| 第6回 | 効果的なプレゼンテーション(発表原稿作成、パワーポイント作成) | | |
| (9月) | 評価の実際(自己評価・他者評価) ケーススタディ発表会の進め方 | | |
| 第7～8回 | ケーススタディの発表 | | |
| (11月) | ※ケーススタディの発表後、論文の最終修正 | | |
| 評価方法 研究論文を評価表に基づいて、担当教員・担当講師が評価する(論文・発表・研究的態度) | | | |
| 科目認定 成績計上の算定割合:100点 | | | |
| 備考 自分の看護実践を振り返り、看護を意味づけしながら自己の看護観を深めて欲しいと思います。また文献検討する力も身につけてください。提出マナーを守り、誠実に取り組む姿勢を期待しています。 | | | |

| | | | |
|--|---|---------|-------------------|
| 科目番号 | C-62 | 科目名 | 看護の統合と実践Ⅲ |
| 対象学年 | 3学年 | 実務経験 | 臨床判断・援助論演習・看護技術評価 |
| 担当講師 | 教員 | 単位(時間数) | 有 |
| 開講学期 | 前期～後期 | | 1単位(30時間) |
| 科目の目的 | <p>各看護学や臨地実習での学びをもとに、課題事例・事象から、必要な看護を考え実践し、実施後に振り返ることで、知識、技術、態度の統合を図り、看護実践能力の基礎となる能力を習得する。</p> <p>事例を通して思考判断し、看護技術を実施し、卒業時の到達度が評価できる。</p> | | |
| <p><授業の概要></p> <p>地域包括ケアシステムに対応できる看護師には、保健医療福祉チームの一員として、看護の専門性を発揮し、個人のみならず地域社会の看護に対するニーズに対応するために看護を採求できる能力が求められる。</p> <p>本科目では、これまで学習してきた知識・技術を統合させ、多様な場の状況に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> | | | |
| 関連既習科目 | 専門基礎分野・専門分野全般 | | |
| テキスト | | | |
| <p><授業の展開及び内容></p> <p>【複数患者への看護計画立案】</p> <p>1回目 臨床看護師から専門的な思考を学ぶ(複数患者に対する援助計画立案)</p> <p>2回目 複数患者に対する援助計画立案の基礎的知識</p> <p>【地域保健活動演習～地域で暮らす人々の健康や暮らしへの貢献～】</p> <p>3回目 } 地域で暮らす人々の健康課題解決のためのプロジェクト立案</p> <p>4回目 }</p> <p>5回目 }</p> <p>6回目 }</p> <p>7回目 } 地域で暮らす人々の健康課題解決のためのプロジェクト</p> <p>8回目 }</p> <p>9回目 } 地域で暮らす人々の健康課題解決のためのプロジェクト評価報告</p> <p>10回目 }</p> <p>【共生社会における看護の役割 ～特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷見学～】</p> <p>11回目 } 共生社会実現のための看護の創造</p> <p>12回目 }</p> <p>【看護技術総合的評価】</p> <p>13回目 } オリエンテーション</p> <p>14回目 } 看護技術総合的評価試験</p> <p>15回目 } リフレクション</p> | | | |
| 評価方法 | 課題レポート、課題演習、授業参加状況、技術評価試験 | | |
| 科目認定 | 成績計上の算定割合：科目計画評価参照 | | |
| 備考 | ディプロマポリシーの達成のための仕上げの科目です。自己の課題を明確にし、課題解決のための主体的・積極的な学習活動を望みます。 | | |

